

においを専門とする環境 保全のスペシャリスト

臭気判定士の仕事のながれ



パネルの選定 (嗅覚検査)



Step 1

はじめに、実際ににおいを嗅ぐ6名の被検者(パネル)の選定を行います。嗅覚の検査を行い、一般的な嗅覚であるかどうかを判定します。



試料採取 (サンプリング)



Step 2

においが排出されている工場の敷地境界や煙突などで、においが強いときのガスをポリエステル製の袋に採取します。



判定試験



Step 3

6名のパネルに試料の入った袋を1つと無臭の袋2つをセットにして渡し、においの感じる袋を選んでもらいます。においを嗅ぎ当てるが出来なくなるまで、薄めていきます。



結果のまとめ (臭気指数の算出)



Step 4

6名のパネルのうち、上下2名をカットし、残り4名の個人閾値を平均することで、臭気指数を算出します。

パネル 6名	希釈倍数 / 対数			個人閾値 (対数)
	×10	×30	×100	
A	×			最小値
B	○	×		1.24
C	○	○	×	1.74
D	○	○	×	1.74
E	○	○	×	1.74
F	○	○	○	最大値

中央4名の平均 (×10) 臭気指数 16

臭気判定士とは?

1996年の悪臭防止法の改正に伴い誕生した資格です。臭気判定士は臭気測定に関するすべてのことを熟知し、パネルの選定、試料採取(サンプリング)から嗅覚測定までを行い、安全かつ精確に臭気指数の測定業務が行える能力が要求されます。最近の筆記試験では合格率は40%前後で、大変取得し甲斐のあるものになっています。測定機関が地方自治体などから測定委託を受ける場合、臭気判定士資格を取得していることが条件となります。

臭気指数とは?

臭気指数とは、人間の嗅覚を用いて悪臭の程度を数値化したものです。具体的には、試料を臭気を感じられなくなるまで無臭空気希釈したときの希釈倍率(臭気濃度)の対数値に10を乗じた値です。臭気指数の目安は以下のとおりです。

臭気指数10	梅の花の香り
臭気指数20	手持ちの花火をしているとき
臭気指数30	ガソリンを給油するとき

嗅覚検査とは?

嗅覚検査とは、「一般的な嗅覚」をもっているかどうかを調べる検査方法です(合格率約95%)。実際ににおい袋を嗅ぐパネルはもちろんのこと、臭気判定士も試料採取や嗅覚測定法による測定に際して、自らの嗅覚による判断が要求されるため、嗅覚検査に合格する必要があります。

